

スマホに子守をさせないで

「私たちは、今までの大人の後輩なんかじゃない。私たちはスマホと大人になっていく、たぶん初めての人類だ」という携帯電話会社のCMは、親世代の方には衝撃を与える言葉であつたと思います。スマートフォンを含め、テレビ、DVD、インターネット等のメディアの長時間の使用は、かつて人類が経験したことのないものであり、心身の発達過程にある子どもへの影響が懸念されています。なぜなら乳幼児期の子どもは、身近な人との関わり合いや自然体験などの遊びを通して人間関係を発達させるからです。

例えば、スマホを操作しながらママやパパが授乳やおむつ替えをしていたらどうでしょうか？生まれたばかりの赤ちゃんも0・01ぐらいの視力があり、ちょうど授乳しているママの顔が見えています。しかし、赤ちゃんがママやパパを見つめていても、親はスマホを見ているとすると、赤ちゃんのちょっとした表情の変化にも気付くことができず、適切な声掛けもできません。

また、動画を見せれば泣き止むからと、安易に利用してしまうと、なぜ泣いているのかもわからず、本来の欲求は満たされないままになってしまいます。これが続くと、赤ちゃん

は目を合わせたコミュニケーションをとることがなくなり「泣いても仕方ない」と無表情で笑わない、泣かないお子さんになります。その結果として、言葉の遅れや人と関わる体験の不足からコミュニケーション能力の低下を生じさせる恐れがあります。

赤ちゃんは、身近な人からしかコミュニケーションの手段を学ぶことができません。泣かなくなつて「この子の手がかからない」なんて喜んでいて、やがて対人関係能力や社会適応能力も未発達なまま、取り返しのつかないことになります。

スマホは、すでに生活になくてはならない物となつています。脳が急速に発達する時期である乳幼児期は、スマホを置いて、目を見て、お子さんの動きかけに十分に応えることが大切です。

(健康福祉課 保健師)



学校コーナー

この一年間を振り返って



五霞東小学校

できるようになったよ

1年 中じま るい



1ねんかんで、できるようになったことがたくさんあります。まず、はなしをきくことができるようになりました。1年生になったばかりは、せんせいの話をきくことができなかったけれど、いまはちゃんと目と耳とあたまとこころをつかっています。

つぎに、かん字の学しゅうが、じぶんからできるようにになりました。さいしよは、がっこうでやっていたから、いえでかん字ノートに書いていました。むずかしいかん字にチャレンジしてみたら、かん字をたくさんおぼえて、きれいにかけるようになりました。

3つめは、しんにゅう生とのこうりゅうかいをやった時に、やさしく教えてあげることができました。きょうしつでわかざりをつくり、たいいくかんで「東くへいこうよ」や「かもつれっ車」のゲームを教えてあげました。

ほくは、らい年2年生になります。1年生が入学してきたら、なかよくあそびたいです。

うれしかったえんそく

1年 きくち ことみ わたしは、とうぶどうぶつこうえん

えんそくで、いろいろなぶつをみる事ができて、うれしかったです。はんのおともだちとオットセイシヨをみたり、のりものにつたあとおべんとうをたべたりして、えんそくをたのしみました。おなじはんのおともだちが「えんそく、たのしいね。」といいました。もうひとりのおともだちが、「そうだよね。」と、いいました。わたしは、みんながえんそくにそろってえんそくにいけてよかったとおもいました。



この一年間がんばったこと

4年 石川 礼桜

ぼくが一番がんばったことは、体育の学習です。なかでも校内なわとび大会に向けての練習には力が入りました。ぼくは2年生の時、持久跳びで20分以上飛ぶことができていました。今年、それ以上跳びたいと思っていました。

なわとび大会本番。「ピーッ」という笛の合図で、持久跳びが始まりました。初めの1分間は緊張して、とても長く感じられました。母も応援してくれているので「がんばろう」と気持ちに切り替えることができました。

着地するたびに体育館には足音が響きます。2分、3分、時間がたつたのに足もだんだん辛くなっていきます。「あつ。」



残念なことにひっつかつてしまいました。でも、大会に向けて一生懸命だった気持ちには誰にも負けていません。5年生では、もっと高い目標をもち、がんばりたいです。